

平成 30 年 6 月 18 日現在

機関番号：33801

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02283

研究課題名(和文) 日本占領下北京における日本語文学の様相に関する基礎的研究 「東亜新報」を中心

研究課題名(英文) Fundamental study on some aspects of Japanese literature in Beijing under occupation of Japan : Focusing on "Toa Shinpo"

研究代表者

戸塚 麻子 (TOTSUKA, Asako)

常葉大学・教育学部・准教授

研究者番号：10711450

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、日本占領下北京における日本語文学及びメディアの様相を明らかにすべく、基礎資料の収集と整理を行うものである。主に中国の図書館での調査によって、文献の取集と整理を行った。

本研究で特に注力したのは、1939年7月に北京で創刊された日本語新聞『東亜新報』である。本研究では、その前半部分の複写を行った。それ以外の現地発行の資料も収集した。そして、それらの資料にもとづき論文としてまとめ成果を公表した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to collect and organize fundamental data to clarify some aspects of Japanese literature and media in Beijing under occupation of Japan. In this research, we have collected and organized literature that has not been attracted much attention in the past, despite being fundamental and important data, mainly through several researches in Chinese libraries.

What we focused particularly on in this research is the Japanese newspaper "Toa Shinpo" that was launched in Beijing in July 1939. "Toa Shinpo" is unique as a Japanese newspaper published in Beijing under occupation of Japan, it is a very fundamental and important material. In this research, we copied and saved it. We also collected other publications. Based on these materials, we published research results and articles.

研究分野：日本近現代文学

キーワード：メディア 国策 東亜新報 日本占領下北京 日中文化交流 日本語新聞 日本語文学 日中戦争

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近年の外地文学研究の隆盛にも関わらず、大規模な日本人コミュニティが存在した北京周辺については資料整備が遅れているという現状があった。特に、1939年7月に北京で創刊されたされた日本語新聞『東亜新報』を扱った研究は非常に少なく、また言及されてはいても実際に紙面を見て論じた研究はなかった。『東亜新報』は軍や興亜院が出資し、現地の他の日本語新聞を統廃合して発刊されたいわゆる「国策新聞」であり、当時唯一の日本語新聞であった。それゆえ、日本占領下北京の状況を知りうる重要な資料であるといえる。

(2) 以上のような状況を改善すべく、『東亜新報』を所蔵している国内外の図書館を調査し、その一つである上海図書館において、デジタルカメラによる撮影を行うこととした。資料公開を念頭に置くのであれば、最善の方法は上海図書館に依頼しPDF化することであったが、料金がデジタルカメラ撮影以上に高額であり不可能であること、資料の劣化が激しく、PDF化を依頼すれば確実に破損を招くことが想定されたため、デジタルカメラによる撮影(1枚20元)を行うこととした。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は北京における日本語メディアと日本語文学状況を把握することであり、さらには日本文学や日本文化人のネットワークなどを解明することである。

本研究に着手する前に、北京で発行されていた文芸雑誌『燕京文学』を入手していたが、『燕京文学』の主要同人である江崎磐太郎、長谷川宏、中園英助等は『東亜新報』の記者でもあった。二つのメディアを併せて見ること、当時の文芸・文化の状況を明らかにし、また文学者や文化人のネットワークが見えてくるのではないかと考えた。

(2) 北京のメディアの特質を明らかにするために、他地域のメディアや文学状況を把握しておく必要がある。特に上海を中心に研究活動を行った。

## 3. 研究の方法

(1) 年に約2回上海図書館に出張し、『東亜新報』の撮影を行った。撮影費用が高額であるため全文の複写ができず、朝・夕各1面は全て、その他文芸記事を中心に撮影を行った。未撮影の箇所、または綴じ込まれて写らない箇所については筆記を行い、帰国後は『東亜新報』文芸記事目録(仮題)の作成を行った。

(2) その他、日本国内にある資料を購入した。特に当時北京に在住していた文学者・文化人である坂井徳三・村上知行や、『東亜新報』主筆高木健夫を中心に収集を行った。その他、『東亜新報』は同盟通信社であったため、研究分担者の神谷昌史が担当し、同社の資料を取集した。

(3) その他、天津図書館や北京国家図書館等に地域に出張し、『東亜新報』や現地発行の雑誌・書籍等の所蔵確認や収集を行った。また日本国内では、国会図書館、東洋文庫や、その他大学図書館等で調査を行った。

## 4. 研究成果

(1) 『東亜新報』の前半部分までの撮影を終了し、1940年までの文芸記事細目を完成させた。本年度(2018年度)より3年間で後半部分の撮影を行い『東亜新報』文芸記事細目を完成させ、発行する予定である。

(2) 『東亜新報』以外の現地メディアの調査・収集を行った。特に天津で発行されていた総合雑誌『北支那』の調査を天津図書館・北京国家図書館で行った。結論からいうと、天津図書館目録に掲載されているものの、所蔵確認はできなかった。そのため、北京国家図書館所蔵のもの確認を行った。現在はその成果を踏まえつつ、他の研究者と協働しながら、日本国内所蔵分(国会図書館・東洋文庫・京都大学図書館等)を収集し、目次を作成し、成果を公表していく予定である。

なお、『北支那』は1934年に天津で創刊され、その後北京の日本人居留民の数が増大しても44年の終刊まで天津で発行され続けた。管見では『北支那』に匹敵する現地発の総合雑誌は北京では発行されておらず、そのため天津のみならず北京文化人が多数寄稿している。今後この雑誌を分析することを通して、天津-北京間の文化人のネットワークも見えてくることが期待できる。

(3) その他にも、本研究期間内に所蔵確認できた資料が複数あり、継続して調査・収集を行っていく。

(4) 以上の調査をもとに論文としてまとめ、次の「5」で示した成果を公表した。

「日本占領下北京の青春と友情 長野賢(野中修・朝倉康)の『燕京文学』掲載小説をめぐって」

主な内容としては、長野賢は『燕京文学』に執筆した作品の内容の分析である。しかし、本論文では、長野賢・野中修・朝倉康が同一人物であることを示す資料を『東亜新報』紙面から資料として示し、別々の筆名を用いながらも、実は『燕京文学』でもっとも執筆本数が多い主要同人であったことを示した。

また竹内好が飯塚朗と親しかったことは知られていたが、長野賢ともかなり親しく交流していたこと(中国語のできる長野が竹内の案内役をしていたこと)を竹内の北京日記を引用して示した。また竹内好と『燕京文学』との関係についても述べた。

「創刊期『東亜新報』(一九三九)の文芸・文化記事について 日本占領下北京の日本語新聞」

『東亜新報』に掲載された文化関連記事についての概況をまとめた。「文芸」に限定せず、ラジオ欄や兵隊向けの欄である「陣中新聞」等についても併せて述べた。

「坂井徳三『北京の子供』と児童文学 日本占領下北京の日本語文学」

『東亜新報』に掲載された坂井徳三の動向について論じた。太平洋戦争が開戦し、時局関連の記事が紙面に躍るなかで、坂井がどのような言論活動を行ったか、資料を引用しながら論じた。農村や子供を描く坂井のエッセイや小説は明らかに異質であったが、それは『東亜新報』というメディアの性質の一面を表している。現に、主筆の高木健夫は戦争を後目に北京の庶民文化について書いたり、社長の徳光衣城は北京の風物を俳句に詠んだりしている。ここに、『東亜新報』の独自性を見ることができるといえる。

本論文では、1942年2月までの坂井の言説を考察の対象としたが、それ以降も坂井の文章は掲載され続けており、今後の調査によって、内容に変化があるかみていきたい。それによっても、『東亜新報』が時局とともにどのように変容していったか、また北京の検閲の状況の一斑が見て取れるであろう。

神谷昌史「『東亜新報』研究のためのおぼえがき 創刊期を中心に」

『東亜新報』についてのまとまった論考としては初めてのものである。中国での調査史料や日本国内の史料をもとに、東亜新報社の設立や『東亜新報』の発刊に至る経緯を明らかにした。また日本軍や興亜院との関わりも深く、「国策新聞」として語られることが多い同紙について、宣伝と報道の境目があいまいであったことを指摘しつつ、紙面の詳しい検討を行ったうえでどのような国策新聞であったのかを考察することこそが重要であると結論づけている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計9件)

戸塚 麻子、〔紹介〕戦時上海グレーゾン 溶融する「抵抗」と「協力」、昭和文学、査読無、76集、2018、240-240

戸塚 麻子、創刊期『東亜新報』(一九三九)の文芸・文化記事について 日本占領下北京の日本語新聞、常葉大学教育学部紀要、査読無、38号、2017、1-9  
[https://tokoha-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=1496&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=39](https://tokoha-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1496&item_no=1&page_id=13&block_id=39)

戸塚 麻子、坂井徳三『北京の子供』と児童文学 日本占領下北京の日本語文学、教育研究実践報告誌、査読無、1巻1号、2017、165-174  
[https://researchmap.jp/?action=cv\\_download\\_main&upload\\_id=162518](https://researchmap.jp/?action=cv_download_main&upload_id=162518)

戸塚 麻子、神谷 昌史、高木健夫『北京百景』 『東亜新報』掲載時における題目一覧、滋賀文教短期大学紀要、査読無、19号、2017、1-11  
[https://researchmap.jp/muyx7tfvh-1887463/#\\_1887463](https://researchmap.jp/muyx7tfvh-1887463/#_1887463)

戸塚 麻子、〔紹介〕千葉俊二・銭暁波編『谷崎潤一郎 中国体験と物語の力』、昭和文学、査読無、75集、2017、165-165

戸塚 麻子、日本占領下北京の青春と友情 長野賢(野中修・朝倉康)の『燕京文学』掲載小説をめぐる、滋賀文教短期大学紀要、査読無、18号、2016、25-37  
[https://researchmap.jp/?action=cv\\_download\\_main&upload\\_id=162519](https://researchmap.jp/?action=cv_download_main&upload_id=162519)

神谷 昌史、『東亜新報』研究のためのおぼえがき 創刊期を中心に、滋賀文教短期大学紀要、査読無、18号、2016、17-24、  
[https://researchmap.jp/mur9fdh1k-1887463/#\\_1887463](https://researchmap.jp/mur9fdh1k-1887463/#_1887463)

神谷 昌史、〔書評〕水谷悟著『雑誌『第三帝国』の思想運動 茅原華山と大正地方青年』、日本思想史学、査読無、48号、2016、225-230

戸塚 麻子、〔紹介〕大橋武彦・関根真保・藤田拓之編『上海租界の劇場文化 混淆・雑居する多言語空間』、日本近代文学会関西支部会報、査読無、23号、2016、15-15

〔学会発表〕(計2件)

戸塚 麻子、堀井弘一郎・木田隆文編『戦時上海グレーゾン』書評(文学分野) 日本上海史研究会例会、2017・3・11、於日本大学通信教育部市ヶ谷キャンパス

戸塚 麻子、『大陸新報』連載小説にみる上海のグレイゾーン 小田嶽夫「黄鳥」を中心に、日本上海史研究会・中日文化協会研究会共催国際シンポジウム 戦時上海におけるメディア 文化的ポリティクスの視座から、2015・10・3、於奈良大学

〔図書〕(計1件)

高綱 博文、石川 照子、竹松 良明、大橋 毅彦、戸塚 麻子、他、研文出版、戦時上海のメディア 文化的ポリティクスの視座から、2016、67-87

6. 研究組織

(1)研究代表者

戸塚 麻子 (TOTSUKA Asako)  
常葉大学・教育学部・准教授  
研究者番号：10711450

(2)研究分担者

神谷 昌史 (KAMIYA Masashi)  
滋賀文教短期大学・国文学科・教授  
研究者番号：50623873